

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200217		
法人名	医療法人 三愛		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	三重県三重郡菟野町大字宿野字神明田325		
自己評価作成日	平成26年7月22日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472200217-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成26年 8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、その人らしい暮らしが続けられ、「居心地の良い空間」また「自信を回復できる場所」であることを大切にしていきたいと考えています。また、立地条件にも恵まれ、買い物・外食などで地域に出向いたり、ボランティアの方々にお越しいただくことで、社会とのつながりを実感できる取組みを行っております。日々の生活においても、本人が主体的な決定を行え、尊厳を保ちながら、安心して暮らせるような環境づくりに努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地帯からは離れているが、すぐ隣が大きなショッピングセンターであり、買い物が散歩といえるくらい気軽に出掛けられる。ゆったりとした敷地内に、木々や野菜畑、託児所があり、利用者の散歩コースになっており、四季折々を感じることが出来る。職員もそれぞれの委員会に属し、日々努力を重ね、「その人らしい」支援に努めるよう心がけている。訪問日の昼食の準備で、エプロン姿で大きなすりこ木でゴマをすっていた方の表情も、またご飯のお代わりをしてもらった男性の表情も、非常に穏やかな感じを受ける。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の担当者会議・ミーティング時、出勤者で運営理念の唱和を行い、理念の共有、実践につなげている。	設立当初からの10項目の理念と4つの誓いをミーティングの都度唱和をし、日常の利用者支援時に管理者は注意している。頭の中では判っていても感情的になることもあり、共有度100%には至っていない感じである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長、民生委員と定期的に意見交換を行っている。また、地域の行事へ参加し交流を図っている。	住宅地から少し離れた大型ショッピングセンターに隣接しており、日常の散歩も「買い物に行く」ことであり、お店の人とは顔なじみになっている。小・中・高校との連携もなく、「地域」との交流も少ない。	地域としての防災訓練やお祭りがあるので、外出行事を兼ねて出かける計画をぜひ実現してほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問介護員2級の実習生を積極的に受け入れて地域への貢献に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を行い、日頃の利用者の様子、サービス内容など職員と家族の交流の時間を設けてそこでの意見をサービス向上につなげている。	会議は2ヶ月ごとに開催されている。地域の方々、家族、行政の出席を得ているが、30分程度の活動報告になっている。さまざまな意見・情報交換の場となるよう検討している。	地域の方々やご家族の参加も多く、各種行事の日に合わせて参加していただいたり、報告を提案型に変更する等、検討中であるので、ぜひ参加者がまた来たいと思うような会議にされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回の運営推進会議、介護モニター事業などで普段から連携を取り、活動状況等を報告している。	管理者は月に数回行政に出かけており、事業所の実情等、連携を密に取っている。過去には認知症についての講師を依頼されたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設老健の委員会に所属し「利用者の権利擁護」について学び、全職員へ周知してケアにあたっている。	併設している老健の勉強会に参加し、身体拘束に関しても勉強している。玄関は開放されているが、各ユニットに通じる扉が施錠されるときがある。現在買い物の好きな利用者があるので、職員が近くにいるときは開放するよう努力中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設老健の委員会に所属し「利用者の権利擁護」について学び、全職員へ周知してケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の資料をいつでも閲覧できるようにしている。また必要性の高い利用者は併設老健の社会福祉士を通じて検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に十分な説明を行い、同意書を得ている。また、運営推進会議等で質問を受け付け疑問点の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者や家族とは何でも話せる信頼関係を築けるよう心掛けている。言いづらい事は第三者委員をたて、苦情の申し出がしやすい環境作りに努めている。	家族とは面会時に話をすることが多いが、提案ごとや要望は少ない。毎月発行の「ひだまり便」に行事の写真だけでなく、お願い事や連絡事項も書く欄を設け、情報連携を密にする努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議をもち自由に意見が言えるような雰囲気作りに努め、そこで出た意見や提案を日々の支援に反映させている。	毎月のミーティングに加え新人とは個人面談をしているし、年に3回、「個人評価票」で4ヶ月毎の目標を立て、実践状況を施設長と面談している。意見はいくつか出ており、最近ではトイレの布タオルをペーパータオルに変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士、介護支援専門員資格取得者に対しては、給与で差別化を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を全職員に周知し、積極的に参加している。また、併設老健の教育プリセプター委員会に所属し、よりよい職員教育を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームの運営推進会議に参加したり、当施設の運営推進会議に参加していただくことで交流を図り、良いところを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人の困っている事、不安な事などを思いを受け止め安心されるまで話し合いを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時には十分な時間を取り本人や家族の不安や要望などに耳を傾け安心して入居できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞き、状況を把握し必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りをしたり畑の草取り、野菜の作り方、収穫を通して家族の一員のように過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会を積極的に促すとともに、外出や、病院受診など、利用者本人の様子を理解していただくとともに、精神的にも安定して過ごせるよう協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時には本人とゆっくり過ごしていただけるよう環境に配慮している。	親族や友人、近所だった人、ボーリング仲間などの馴染みの方々の訪問があり、来てもらう関係であるが、積極的に利用者の馴染みの人や場を聞き出し、その関係継続のために出かけることも必要と考えている。	現在のアセスメントシートに、なじみの人や場についての質問を追加し、関係継続の支援に力を入れられるよう期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間、お茶の時間など食堂に集まるときには利用者同士の会話が見られる。孤立しそうな人には職員が間に入り、全体で会話を楽しめる様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。また、入院された時などは情報の収集を行い円滑に援助できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や嗜好を楽しめるよう配慮している。また思いに添った暮らしができるよう常に本人と対話することで気持ちを聞き、興味関心などを探るようにしている。	日常生活の支援時の話の中から思いや意向を吸い上げており、連絡ノートに記入し共有している。特に風呂の中では職員と1対1の関係で話しやすいのか、普段聞かない話が出るときがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、これまでの生活環境などを詳しくお聞きし本人にとって、どのようなケアが適切なのか、職員間で話し合い、見直しをして実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムを大切にしている。一日の身体の変化や状況に応じて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や運営推進会議の際に本人・家族と話し合い、意向を伺う。それを月1回のミーティングでスタッフで協議しケアプランに反映している。	利用者の担当職員が家族の意見を含んだ「たたき台」を作り、毎月のモニタリング会議で全員で検討し、計画につなげている。モニタリング票は各支援課題ごとに検討することになっており、支援継続か否かを判断している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々のケアに携わり、気付いたことをメモする。そこから個別日誌に記入し、日々のつながりを考慮したケアの実践につなげている。また、つながりのある介護計画に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアによる三味線やハーモニカに隔週で来所してもらい普段とは違った雰囲気を楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺スーパーや飲食店へ出かけ、社会とのつながりを大切にしたい援助を心がけている。また、利用者自身の生活のはりにつなげられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ももとの主治医を基本として受診していただいている。また必要に応じて協力医療機関と連携を取る。受診の際介助が必要な方は介護職員が付き添い無理なく受診していただく。	約半数の利用者が従来からのかかりつけ医を利用しており、家族が対応しているが、他の方々は協力医療機関で、職員が受診に付き添っている。夜間の急病時に協力医療機関が利用できない課題がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回併設医療機関の看護師と連携を取りアドバイスをもらっている。早期発見による病院受診へつながるケースもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と常に連携を取り、退院時期の相談などを行う。認知症のため、安静が保てず早期退院というケースも多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方については入居時に家族と話し合いをしている。重度化した場合は家族と話し合い、他施設も含めた相談援助を行っている。終末期を当施設で迎える場合はよい終末を迎えられるようチームで支援に取り組んでいる。	医療行為がなければ終末期対応は出来る方針で家族に話しているし、事業所内の体制も出来ている。過去には終末期の対応実績もあり、不安を感じていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが、急変や事故発生に備えて、初期対応の方法の実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6か月に1回避難訓練を実施。内1回は夜間想定にて実施している。また区長、民生委員と話し合いをもち、避難方法を確認している。併設事業所との連携も話し合っている。	特に火事に重点を置いており、消火・避難・誘導を昼間だけでなく夜間想定も行っている。近所は大型店舗やショッピングセンターであり、もらい火よりも火を出さない努力をしている。備蓄は併設老健に依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるということを常に頭に置き挨拶や言葉かけは、丁寧な言葉使い、且つ温かみのある対応に心掛けている。プライバシーに関しては利用者の人格を尊重し細心の注意を図り接している。	利用者の発する言葉に共感し、受け入れ、思いを汲んで行動している。またお風呂とトイレ時は、プライバシーに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や行動を察知し、訴えに耳を傾けて、できる限り迅速に、そして意に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を見ながら支援し、意思や主張を最優先したうえで、ひとりひとりのペースを保って過ごしていただけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体調や目的に応じて自由に身だしなみやおしゃれを楽しんでいただけるよう、利用者の意見を尊重し、さりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みの調理法や料理を教えていたり披露してもらい食事に関心を持っていただく。また、準備や片づけを皆様と一緒にいき、利用者のやりがいにつなげている。	食材の購入から調理、片づけまで全てユニット内の調理場で行っている。調査日は散らし寿司で、海老の皮むきや、ゴマすり、すしご飯を団扇で扇いだりと、利用者の出番も多かった。職員も一緒にいたり、和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して主食・副食は重ならないようにメニュー記録表を見ながら栄養バランスを考えて献立を提供している。また、ひとりひとりの状態に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は自分で、介助が必要な方は介助で毎食後口腔ケアをして、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄のパターンを知り、個々に応じたトイレでの排泄や排泄の自立に向けた働きかけを行っている。紙パンツの使用は本人の意思を尊重しつつ排泄の支援をしている。	トイレでの排泄に力を入れており、訴えのある人はもちろん、動作・仕草にも注意している。ご本人の体調にもよるが、リハビリパンツから布パンツへと自立に向けての取組みもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として毎朝牛乳・ヨーグルトを飲食して頂き個々に応じた運動の働きかけで予防に取り組んでいる。長期便秘の方には医師の処方された内服薬を飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望に合わせた支援を行っている。	毎日沸かしているため毎日でも入れるが、1日おきが日常になっている。入る順番も自由で、お風呂嫌いの方もなく、ヒノキづくりの風呂で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の体調や希望に合わせてテレビや新聞を見るなどして、ゆっくりとした休憩が取れるよう配慮している。規則正しい生活が出来る様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとり「お薬の説明書」を受診時にはもらい、全職員で確認し、用法等を十分理解するよう努めている。また誤薬防止につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、外食、野菜作り、ボランティアの楽器演奏など楽しんで過ごせるような行事計画をしている。それぞれ、利用者自身の得意な事や好きなことを聞き出しながら、実施できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常会話の中で、希望を伺い、買い物・外食・ドライブなどに出かけている。また、家族の協力を得て外出することもある。	日常的には野菜畑のある庭の散歩や、すぐ隣の大きなショッピングセンターへの買い物が散歩代わりになっている。毎月みんなで出掛ける行事が計画されているが、参加できる方が限られてきているのが気がかりである。	季節の花見とか食事を兼ねた外出等計画しているが、なんとなくマンネリ化してきているように感じている。「みんなで行きたいところへ行く」を目標に、利用者各人の希望の吸い上げと内容の充実をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は全て施設側が預かり管理している。必要に応じて使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人から希望する場合や、かかってきた場合は、事務所内で電話対応できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	折り紙や包装紙を使い季節感を取り入れた花などを利用者を作り、共用の空間に飾り季節の変化を楽しんでいる。全館エアコンで寒暖差をなるべく少なく快適に過ごせるようにしている。	建物の真ん中にウッドデッキの中庭があり、それを取り囲む形で廊下があり、その外側に各居室がある。幼稚園風の飾りつけもなく、落ち着いた雰囲気、廊下の壁には行事の写真や利用者の手づくりの作品が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や和室にソファを設置し、自分の好きな場所で過ごせるよう配慮している。また、食堂は団らんの場として、テレビやラジオ、音楽プレーヤーで和やかな雰囲気を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には使い慣れた馴染みの物や、思い出の品や家族の写真などを設置し、過ごしやすい空間を作れるようにしている。	掲示用の大きなコルクボードが取り付けられてあり、カレンダーや写真、絵など皆の好みのものを貼り付けている。また、椅子やテーブルの他、大きなソファの持ち込みもあり、それぞれ好みの居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所には手すりを設置し、廊下は十分な広さを有し歩行器やシルバーカー等でも移動がしやすい。また、トイレも4か所あり部屋からすぐに行ける構造となっている。できる限り自立した生活が送れるよう工夫している。		